

新聞に親しみ、思考を深め、進んで表現する児童の育成

門川町立草川小学校
教諭 甲斐賢剛

1 はじめに

本校は本年度よりN I E実践校となり、特定の学級及び教科に考慮したN I E活動を行い、一定の成果を残すことができたと考えている。

来年度は、再度、職員間の共通理解を図り、N I E活動の重要性を十分に認識させ、本年度の取組をさらに全校的な取組へと広げ、内容を充実・深化させることにより、N I E教育が児童に浸透できるように活動を推進していきたいと考えている。

2 主題設定の理由

主題は、「新聞に親しみ、思考を深め、進んで表現する児童の育成」と設定した。

本校の児童の実態として、家庭で新聞を購読している児童は少なくないものの、実際に家庭で読んでいる児童は少ない。また、学級に新聞があるような環境でも、ただ置いているだけでは、有効な新聞活用にはつながらないということも伺える。

そこで、教師側から働きかけることにより、新聞を目にする機会をつくり、身近なものとしてとらえられるようにしたいと考えた。そのことが、家庭でも自然と新聞を読むことにつながると考えられる。また、現行学習指導要領で明記されている「言語活動の充実」には、新聞にある活字をしっかりと読み込むことや新聞記事について自分の考えをもち、文章で表すことが重要であると考えられる。

以上のことから、新聞を目にする場を意図的に設定することにより、新聞がもたらす意義や有効性を理解し、結果として新聞に親しみ、自分の思考を深め、進んで表現することができる児童を育成したいと考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 学校における取組

新聞を目にする機会をつくり、身近なものとしてとらえられるようにするために、毎週発刊されている「宮日こども新聞」を印刷して、各学級に配布し、児童に読んでもらえるようにした。また、「宮日こども新聞」を教室に掲示する学級も見られた。

「宮日こども新聞」の中に「吹き出し大喜利」というコーナーがある。例えば、こちらのコーナーを紹介し、写真にぴったりの言葉を考える活動を行った。新聞は難しいものというイメージから、新聞はいろいろな情報が載っている、ためになって楽しいものというイメージに変えたいと考えて取り組んだ。笑顔で言葉を考え、友達と紹介し合う児童の姿が見られた。

また、その他の活動として、宮崎日日新聞で取り上げられている子どもたちの作品「若い目」を、朝自習の時間等で、音読したり、視写したり、感想をまとめたりする活動に取り組んだ。自分たちと同年代の子どもたちが、どのようなことに興味をもち、どのような考えをもっているのか、理解することができた。

(2) 実践事例

① 第3学年

ア 国語科単元「言葉の意味を調べよう」での学習

新聞には文字がたくさん書いてあるし、読めない漢字も多い、言葉も難しくて分からないと、新聞を敬遠する児童もいる。そこで、少しでも新聞に触れる機会をもつために、新聞に載っている難しい言葉の意味を国語辞典で調べる活動を行った。

まず、児童の興味を引くような新聞記事を教師が読み上げ、その中の言葉をいくつか黒板に書く。学習していない漢字も書くので、子どもたちとみんなで読み方を確認していく。次に、これらの言葉の意味が分かるかを尋ねると、児童からは正確な答えが返ってこない。そこで、国語辞典を使って意味調べの活動に入り、ペアで活動した。児童が感じる新聞の言葉の難しさが、意味を調べる楽しさになった。

【難しい言葉を調べる児童の様子】



イ 社会科単元「農家の人びとの仕事」での学習

社会科「農家の人びとの仕事」の学習のまとめで「ミニトマトクイズ」を作った。その発展として、りんごについて紹介してあることも新聞の記事を印刷して児童に配り、記事を読んで、りんごクイズを作るという活動を行った。

最初は個人で考えるようにしたが、文章やグラフ等の情報を読み取ることが苦手な児童もいることから、ペアやグループで考える活動に変更した。友達と協力し合うことで、新聞に載っている多くの情報に気付き、様々なクイズを楽しく作ることができた。

最後に、他のグループの友達とクイズを出し合う活動をしたが、正解を確かめるときに、新聞の記事を再度友達同士で読み合う姿も見られ、新聞に掲載されている記事に興味をもつきっかけ作りができた。

(ア) 目 標

- 地域には、農作物の生産に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域などとの関わりを理解するとともに、農家の仕事と自分たちとの生活との関わりを考えようとする。
- 地域の農家の仕事の様子から学習問題を見い出して、見学・調査したり、資料を活用したりして、具体的に調べたことを白地図や作品にまとめるとともに、農家の仕事と自分たちとの生活とのつながりについて、考えたことを適切に表現する。

(イ) 本 時

- 農家の仕事でミニトマトについて調べたことや分かったことをクイズ形式にして、まとめる学習をした。本時はその発展として、「宮日子ども新聞」のりんごについての記事をもとにして「りんごクイズを作ろう」という活動に取り組んだ。

ウ 学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容	指 導 上 の 留 意 点	資 料
つ か む	1 前時までの学習を振り返る。 ・ ミニトマトを作っている農家について調べたこと ・ 調べたことをクイズ形式にしたこと	○ これまでの学習を振り返らせ、農家の仕事について学んだことをクイズ形式にしたことを確認する。	
見 通 す	2 本時の学習について知る。 ・ りんごについての記事を読み取る。 ・ 記事をもとにして、「りんごクイズ」を作る。 新聞を読み取り、「りんごクイズ」を作ろう。	○ 「子ども新聞」のりんごについて書かれた記事を印刷したものを全員に配布する。 ○ 記事をもとにして、他地域の農家の仕事や作物にも興味をもたせ、クイズづくりへの意欲を高める。	宮日子ども新聞
解 決 す る	3 「りんごクイズ」を作る。 ・ 記事を読み取る。 ・ 読み取ったことをもとにして、「りんごクイズ」を作り、ノートに書く。 個 人 → グループ	○ 記事には、文章、絵、表、グラフが含まれているので、最初は隅々まで読み取り、その後、クイズを作らせる。 ○ 個人でクイズ作りをするのが難しいときには、グループで協力して考えてもよいことにする。	
ま と め る	4 「りんごクイズ」を出し合う。 ・ 自分たちが作った「りんごクイズ」を出し合う。 グループ → 全	○ 自分たちが作ったクイズを出し合い、答えを確かめ合わせることににより、記事をさらに深く読み取る意欲へとつなげる。	

振 り 返 る	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>新聞には、たくさんのことが書かれてあり、いろいろなことを知ることができる。</p>	<p>○ クイズ作りを通して、新聞には多くの情報が載っていると知ったことを振り返らせ、新聞をこれからも読んでみようとする意欲へとつなげる。</p>
------------------	--	---

【クイズを作る児童の様子】



【話し合い活動の様子】

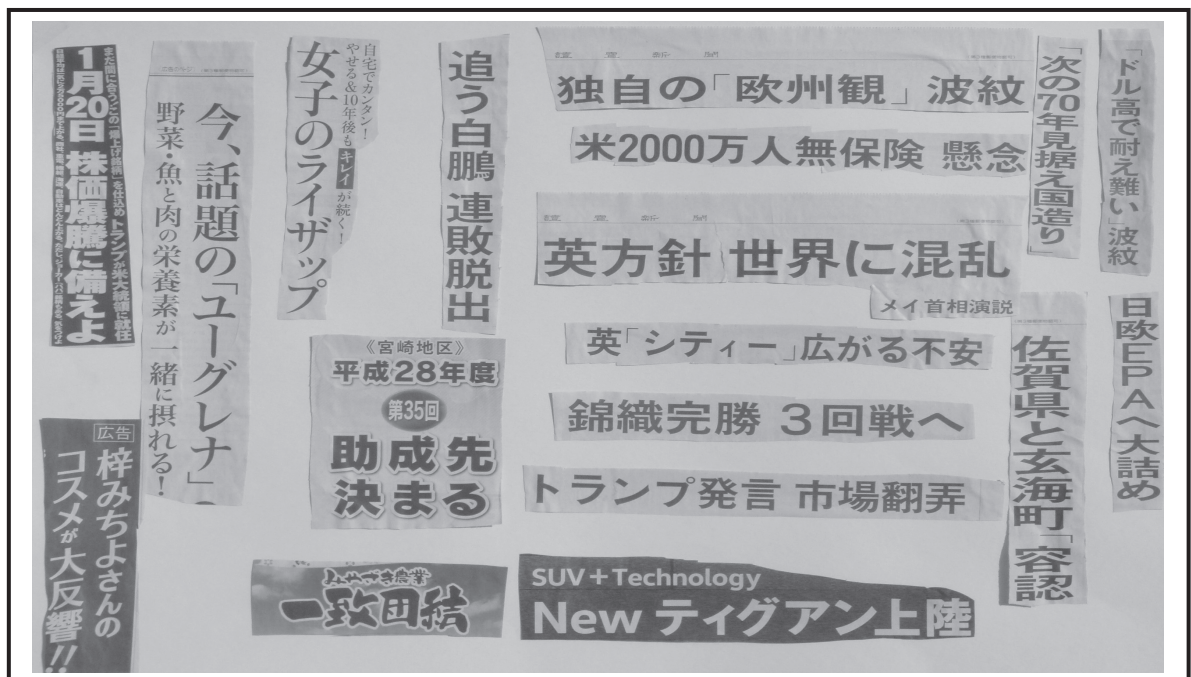


② 第6学年

ア 新聞に慣れ親しませる活動

(ア) 興味のある気になった見出しを切り抜かせる活動では児童に新聞に親しませるために、新聞から自分たちが興味をもった記事を読ませ、その見出しを切り抜いて、画用紙に貼り付け、発表させる活動を行った。政治、経済、社会、文化面等、様々なジャンルから記事の見出しを集めることができた。また、今回の学習は国語科との学習とも関連させて進めることができた。

【見出しを切り抜かせる活動】



(イ) 切り抜いた記事や見出しで文章を作らせる活動

新聞に目を通すと、様々な言葉が紙面に踊っている。そのような言葉を上手に活用し、主語や述語、修飾語等を生かしながら、短い言葉で表現する川柳の要素も取り入れ、文章を作らせる活動に取り組んだ。

子どもならではのユニークな発想で綴られている文章もあり、児童は楽しく取り組むことができた。

イ 理科単元「大地のつくりと変化」での学習

本単元の学習の中では、地震や火山活動による大地の変化と災害とを関連させて、地震が大地にどのような変化を及ぼすかについて、新聞記事を活用して学習を進めた。

新聞記事の活用を通して、地震や、また、地震後、発生し押し寄せてくる津波の影響によっても、大地の変化が起こることを理解させることができた。

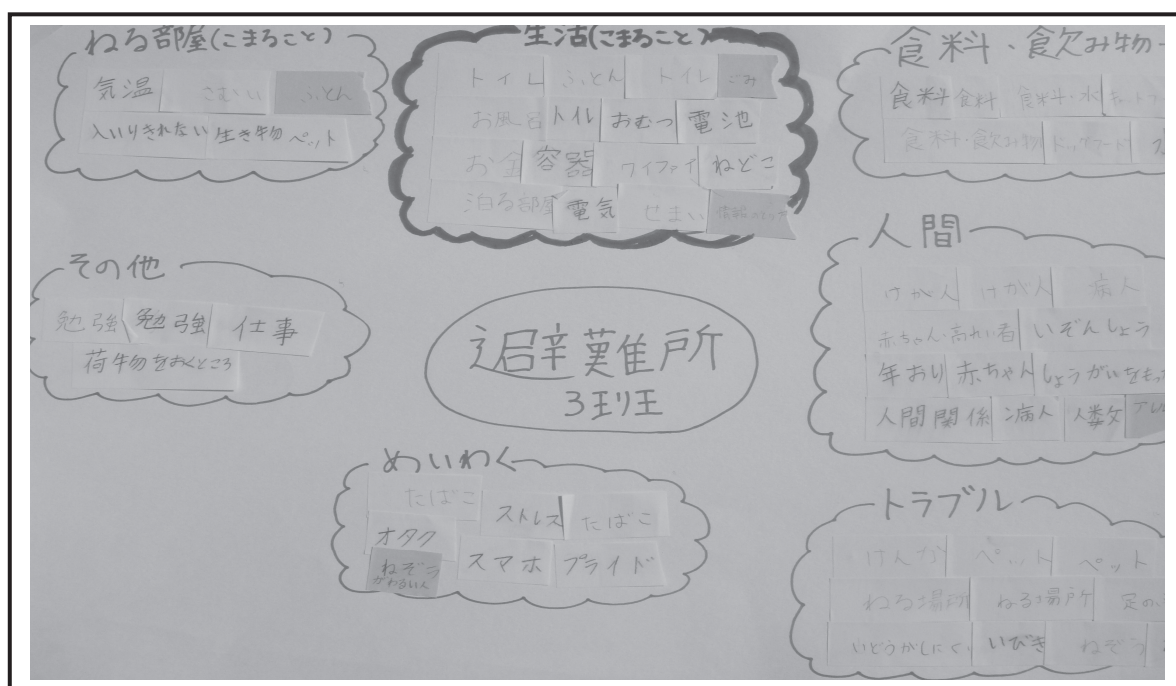
ウ 総合的な学習の時間における防災学習

本校は、海岸に近く、海拔の低いところに位置している。東日本大震災の津波による被害を教訓にして、毎月「忘れてはいけない絆の日」を設定し、防災に関する学習や避難訓練等、防災教育に力を入れて取り組んでいる。

そこで、防災学習の一環として、新聞記事を活用した学習に取り組んだ。新聞記事をもとに震災の恐ろしさをあらためておさえた上で、「もし草川小が避難所になったらどのような問題があるか」ということを中心にして、各班で自分の考えを付箋紙に書き、それらを観点ごとに仲間分けさせるなど、ワークショップ活動を取り入れ学習を進めた。

今までの防災学習学んできたことも生かしながら、児童からたくさんの問題点を出し合うことができた。

【ワークショップでまとめた活動】



4 成果と課題

様々な学習や活動に新聞を活用することにより、教室にある新聞を休み時間に手にする児童も次第に増えてくるなど、児童の新聞への興味関心も次第に高まってきた。また、新聞を取り入れたことにより、子どもたちの思考を深め、進んで表現できるようにするために、学びの有効な手段であることも確認することができた。今回の指定を受けて、内容をあらためて見直し、どのようにして新聞を子どもたちの学習に取り入れて活用を図っていくかという視点で捉え直すことができた。

指定を受けた本年度は、3年と6年を中心にして、研究や実践を進めてきた。今後、さらに全校的な取組として広げていけるようにし、また、今回取り組んだ内容以外の他教科・他領域においても、新聞をどのようなねらいで、どのような方法で活用していくかについて、さらに研究を深め、実践を積み重ねていきたい。